

第37回 内陸アジアの遊牧民②

1 北方遊牧民の活動

- ・4世紀以降、ユーラシア大陸の寒冷化などを原因として遊牧民の活動が活発になった。
→4世紀には、西晋の内乱に乗じて、「」と呼ばれる遊牧民が華北（中国北部）へ侵入した。
※（）、（）、匈奴の一派である（）、チベット系とされる（）と（）の5つ

☆（）（2世紀ころ～6世紀に漢化）

- ・2世紀に匈奴にかわってモンゴル高原を支配した。
※単于にかわり、（）の称号を用いた。
- ・4世紀、中国に入り（）が（）を建国した。
→439年、（）の時代に華北を統一した。
- ・6世紀、（）は（）によって習俗を中国風にした。

☆（）（5世紀ころ～6世紀半ば）

- ・モンゴル系の遊牧騎馬民族で、モンゴル高原で活動した。
→可汗の称号を用い、突厥やウイグルでも使用された。
- ・552年、（）によって滅ぼされた。

☆丁零 →（）→ 鉄勒（前3世紀～7世紀後半）

- ・いずれもトルコ系の遊牧騎馬民族であった。

☆（）（6～8世紀）

- ・6世紀に勃興したトルコ系の遊牧民で、552年、柔然を滅ぼして建国した。
- ・ササン朝ペルシアの（）と協力して（）を滅ぼすなど、中央アジアから中国東北部にかけて大帝国を築いた。
- ・北方遊牧民最古の文字である（）を用いた。
※アラム文字かソグド文字に由来し、オルホン碑文に書かれていた。
- ・583年、内紛と隋の干渉により（）と（）に分裂した。
→東突厥は、630年、唐の（）に敗れて、唐に服属した。
→西突厥は、657年、唐の高宗に敗れて、8世紀末に分裂して滅んだ。
- ・その後、東突厥は独立して再興したが、8世紀にウイグルに滅ぼされた。



☆ () (回紇) (8～9世紀)

- ・トルコ系の遊牧民で、744年に東突厥から自立した。
- ・() や仏教を信仰し、ソグド文字に由来するウイグル文字を用いた。
- ・755年に始まる() の際には、唐を援助した。
- ・9世紀にキルギスによって滅ぼされて、一部は甘粛に移住した。

☆ () (840年～13世紀)

- ・トルコ系の遊牧民で、9世紀にウイグルを滅ぼして独立した。

2 西域のオアシス都市

・中央ユーラシアの砂漠や草原など乾燥地帯には、() で雪どけ水や地下水を利用して、() が建設された。

- ・オアシス都市は隊商交易の拠点として栄え、() の周辺には敦煌・亀茲(クチャ)・ホータン・カシュガルなど多くのオアシス都市が点在した。
→これらオアシス都市は、古来よりアケメネス朝・アレクサンドロス大王・前漢の武帝・突厥・唐など大規模国家の支配下で繁栄することが多かった。
- ・これらオアシス都市を通る東西交易ルートを「
」といい、中国の絹を西方に運んだことから「
」とも呼ばれる。
- ・() はイラン系の民族で、シル川とアム川に挟まれたソグディアナのブハラやサマルカンドを拠点とし、「オアシスの道」で盛んに隊商交易を行った。
→特に() が拠点として栄え、中国では康国と記された。
- ・アラム文字に由来するソグド文字を使用した。
- ・唐に、ゾロアスター教やマニ教を代表とする西方の文化や商品をもたらした。
- ・中央アジアは9世紀からトルコ系住民が多くなり、「トルコ人の土地」という意味で() と呼ばれるようになった。
※タリム盆地の西にある() を境に、東トルキスタンと西トルキスタンに分かれている。
→10世紀に() が成立すると、徐々にイスラーム化していった。